

## 主事先生と小鳥



わたしたちの小学校には、わたしたちが使いやすいように、あるいは、過ごしやすいように、学校や教室の中のいろいろなものを、直したり、作ったりしてくださる主事先生がいらっしやいます。一か月ほど前のことです。学校のプラタナスの木の枝が、へいからはみ出し、電柱に引っかかっていたいました。このままでは危ないし、じゃまになるので、この

木の枝を切ることになりました。

さっそく主事先生は、せん定ばさみとキヤ立を持って、枝を切り落としに行きました。はみ出したプラタナスの下にキヤ立を置くとせん定ばさみを取り出し、枝を切り始めました。新緑のまぶしい新しい枝はまだやわらかく、ザクツ、ザクツと心地よく、はさみの間から下へ落ちていきます。切り落とされた枝のあった場所は、すっきりと向こうの家の屋根を写し出しています。

主事先生が切り落とした枝を集めようと手をのびたそのとき、枝と枝の間に何やら動くものを見つけました。もぞもぞと動く小さなはい色のかたまりが四つ、くつつき合うようにしてうづくまっています。小鳥のひなでした。自分が今切り落とした枝の中に、小鳥が巣を作っていたのでした。

学校のみんなが安全に過ごせるようにと思ってしたことです。だれも主事先生を責めるものはいないでしょう。見つけたひなを、巣ごとそっと別の枝の上に乗



せておいてもよいでしょう。主事先生は、せん定した木を黙って見上げていましたが、やがて、ひなたたちをそっと拾い上げると、巣ごと主事室に連れて帰りました。

（一週間もしたら大丈夫だろう。）

それから主事先生はひなたたちにえさをやり始めました。小鳥用のえさをすりつぶして水を混ぜたものを、スポイトで口の中に入れてやるのです。なかには、スポイトを近付けても口を開けようとしないひなもいます。主事先生は、根気よく口を開けるまで待ってえさを食べさせました。

土曜日は休みなので、段ボール箱に入れて持って帰り、家で世話をしました。それから、小鳥の名前も\*「カワラヒワ」という種類の鳥だと分かりました。



うまくいけば、一週間ほどで自然に帰せるだろうと思っていました。しかし、二週間が過ぎても自然に帰すことができません。体も大きくなり、少しずつ飛べるようにはなりましたが、自分でえさをとるすべを知らないのです。

「すまないことをしました。仕事とはいえ、自分がやったことで迷惑をかけたのだから、最後まできちんと世話をしないと…。」

「いつの日か、小鳥が巣立っていったときが、本当に世話をしたことになる。」

主事先生は静かにつぶやき、今日もえさをやっておられます。



カワラヒワ

\*カワラヒワ（河原鶉）・・・スズメ目アトリ科ぶんるいに分類される鳥類の一種である。

体長は約十四センチでスズメと同じ大きさだがやや小さい。全体的には茶色で、太いくちばしと、つばさに混じる黄色が特徴的である。